



世界からはみ出した自分。



せかいからはみだした。

世間や一般常識から自分が超越しているように思えた。

自分の世界が一般の世界を塗りつぶした。

ココロのカラーがリアル・ワールドを侵食した。

なんだかとても、それがカッコ良く思えた。

誇大妄想。偉大なるわたしのところ。

よりどりみどりのみどりをつかみどり。

ああ、酒乱の方が、どれだけ正常だろうか。

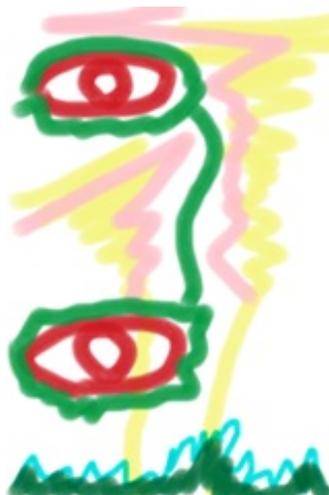
よりどりみどりのみどりをつかみどり。

わたしのグリーンがざわざわ蠢き世界の緑を掴みどり、

ありたけ捕食し食いまた枝を出し枝からみどりを出し。

誇大妄想の狂人のみどりを、つくりたかったのさ。

ふつうのビジョン。



『どうして世間の人間は、「フツー」という概念に縛られるのだろう。』
これは、普通の代表例である。

『自分が普通でありたくない』という、『普通』があるとする。
そういうモノがあると、普通からはみ出た人間を受け入れる居場所になる。

『普通から外れたい』という、なまえの、『普通』、というオりに
可哀想に世間一般人は閉じ込められているようなものである。

例えば、

『個性』という言葉聞いて想像するものは、世の中にありふれている。
すると、個性が、本当の個性で無いのに、個性として扱われてしまう。
演出された個性を着て、演出された芸術を着て、世を歩く人間のなんと多いことか。

しかし社会はそういうシステムになっている。
普通からはみ出したい人間『専用のオリ』や、
個性的になりたい人間『専用のオリ』
芸術的な芸術を作りたい人間『専用のオリ』が
いっぱい用意されているのである。

コピー品ばかりが出回り、本当に個性的なものは皆無である。
コピー品のワクを外れれば『個性が無い』とこう、排除される。
なんだ結局は、個性や独自性というラベルが貼られた 『コピー品』 以外の
個性やら独自性があるものを流通させない為に、
個性やら独自性という言葉が社会に溢れているのかと。

社会というものはとても上手く、賢く、出来ているのだなあと、よく感心してしまう。

何故そんなものがあるのかという疑問に即答すると、

『ニンゲン』を閉じ込める為のオリ。

普通に考えれば、物凄くよく出来ていて当然である。



みどり、みどりみどりみどりみどりみどり。
生えては枯れる、栄枯盛衰の感性たちよ。

社会を監視し、異分子を排除する芸術よ。

フリーダムという名の、人を縛る鎖よ。

それらにコントロールされた、忠実なる番犬の如き若者よ。

あなた達は、ただの『コピー』です。

集団を維持する為に演出された舞台の上で、
個性という名の面をかぶり踊る道化よ。

話は変わりますが

『支配者』がないのが、民主主義の特徴だと言いますが
むかしと、いまのちがいは。

皇帝のような目に見える支配者から
集団のように目に見えない支配者に
変わっただけなのではないのでしょうか。

学校でも、目に見えない支配者が『イジメ』を行なう訳でしょう。
ならばそこには個人としての意志もあるでしょうが
集団としての意志が当然ありますし、
異分子を排除しようという働きも存在するでしょう。

もし、社会がそれを認めてしまえば、
責任は社会に以降するのですから、認めないでしょうね。
皆、キレイでいたいのです。
皆、まさか自分の心の中に、例えば人をいじめるような
そんなモノがあるとは思いたくないのです。

『話は変わりますが』

みどりみどりみどり。たくさんのみどり。
ふるいみどりから、あたらしいみどりまで。
あちらこちらに、みどりみどりみどり。よりどりみどりのつかみどり。

はっぱを、しゃべる、
そのまま漢字にすると
言葉。

街を歩くと
聞いた事のあるような
言『葉』で、いっぱい。

聞いたことの無い、言『葉』は、聞こえない。
ああ、なんて安心できるのだろう。
聞いたことの無い、言『葉』を、排除すれば、
とても安心のできる、まいにちがおくれるのだから！

みどり

<http://p.booklog.jp/book/26272>

著者：せいうんですよ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/seiundesuyo/profile>

発行所：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/26272>

ブックログのパブー本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/26272>